令和６年度　第５回　裾野市の教育のあり方検討委員会　記録

※18 時 30 分開会

※20 時 00 分閉会を目処

学校教育課長	定刻となりました。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。 どうぞよろしくお願いいたします。 はじめに、開会を教育監よりお願いします。
教育監	ただいまから「第５回　裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。
学校教育課長	次に、教育長より挨拶をお願いします。
教育長	この検討委員会も５回ということで、一区切りになります。事務局でこれまで議論いただいた内容について、まとめてみました。本日は、これについて意見を出していただき、検討していただければと思います。将来の裾野市の教育の方向性と具体的な進め方について、御示唆をいただければと思います。よろしくお願いします。
学校教育課長	次に、委員長より挨拶をお願いします。
委員長	今日が本年度の最後になります。これまで議論してきたものを事務局で案としてまとめてくれました。断片的に話し合ってきたものが形になっています。読んでみると、まとまったことを言っているなあというところもあれば、言ったことが生きてないなあといった違和感を覚えた方もいると思います。今日は、違和感を全面的に出して、この場で解消していければと思いますので、発言をお願いします。
学校教育課長	次に、協議事項に入らせていただきます。 ここからは、村山委員長に議事進行をお願いします。

委員長	それでは、議事を進めていきたいと思います。 本日は、本委員会からの報告書の提言の部分につきまして、事務局案を元に協議を進めていきたいと思います。 はじめに、事務局より説明をお願いします。
課長代理	（課長代理より説明）
委員長	この図でいうと、一番上のところになりたい自分に進んでいくという形で一人一人の成長のようなことが目標として書かれていますが、裾野市の教育のあり方は基本的にそういうことでよいのかという点が気になります。一人一人がなのか、市全体なのか？ 学校で完結するのではなく、学校でそういった人たちを輩出することにより、全体が育ちあっていくというのを目標にするのか。それとも、一人一人のウェルビーイングを目指していくのかというところはどうでしょうか。
教育長	議論の中で、個人を取り巻く環境に目を向けていくという話が出てきまし

	た。教育が及ぼす作用は学校だけにとどまらないと考えてみますと、ここで育った人たちが市を変えていく力になるという観点が流れている印象です。
委員長	文章は、目的をきちんと書かないとわかりにくいと考えます。何を目的にするのか気になりました。個人が生きる環境に変わっていくということを考えると、裾野市が素敵な街になっていくという考え方と、一人一人が成長していくということがくっついているということが、私たちが考えたことだと思っているので、そのあたりが出てくるとよいと思います。
委員	裾野市の目指す教育というページの「コミュニケーション能力にかかわること」の部分で、環境を調整していくことによって力を発揮されることが話し合ったが読み手には分かりにくい部分もあると感じました。例えば、「すなわち」と言って児童生徒を取り巻く環境を調整することで育まれる力があることを全ての人が理解し、実践していくことが大切であるというように少し言葉を補った方が良いと思いました。 また、「インクルーシブ教育に関わること」という部分で、「インクルーシブの考え方を持ち・・・」となっていますが、どのような考え方なのか言葉を補った方がよいと思いました。この部分がどういうことを伝えたい文章なのか、確認ができるとよいと思いました。
委員長	このようにしたいというアイディアはありますか？
課長代理	コミュニケーションのところは、「すなわち」という形で伝えたいことを補っていきたいと思います。また、インクルーシブの考え方というところも、どのように進めていくかうまく伝わらないというところがあったので、考え直して皆さんに提案できるようにしていきたいと思います。
委員	全ての子どもが共に学び成長できるようにどう進めていくかを考えていくべきという考え方を入れるのであれば、もう少し何か言葉を補った方がいいのかなと思います。 また、一つ一つの教育の視点とかのエッセンスが盛り込まれているかが必要かなと考えた時に、自分を生かすためには誰かの力を借りるとか後ろの方では言及されていてすごく大事だと思いましたが、基本的な考え方のところ（４つの柱）に頼る力などの要素を基本的な考え方のところににじみ出るようになるといいなと思いました。後ろの方で触れられていますが、全体の部分でも触れても良いのではないかと思いました。
委員	地域コミュニティのところで、学校と地域がそれぞれ独立した存在と考えがちと書かれていますが、自分はそうはとらえてなというところがあります。また、「学校と地域コミュニティが分断」というところがあったが、あえて明記する必要があるのか。もう少し柔らかい言い方がないかなと思いました。
委員長	今まではこうだった、と前のことが悪く書かれがちですが、実際とは少しずれている部分があるかもしれないですね。
委員	そこまで言い切らなくてもいいのかなと思いました。
委員	地域の中心にあった学校がなくなってしまうということで、もともとその

	学校の校区に住んでいる人が切り離されてしまうという文脈で出てきた話だったと思います。言葉遊びになってしまうかもしれませんが、分断ではなく懸念が示されているなど、地域どう不安に感じているのかというところが組み込まれたほうがよいのかなと思いました。
委員	関係が薄れているというか、地域の中心にあったものが離れていくというか、言葉が柔らかくなるとよいと思います。意識的に再編によってかけ離れた存在になるというか、密着度が下がるというか。
副委員長	今まで培われた地域とのつながりを、さらに深めていくという書き方はどうでしょうか。誤解のないようにするとよいと思います。「分断」という言葉は、確かに誤解を招くかもしれません。
委員長	提言全体の組み立ての問題にも関係すると思いますが、提言の前に学校再編の話題が登場します。それを踏まえて目指す教育を考えるのか、目指す教育を考えた上で再編をやるのかというところで、話が変わってきます。理屈としては後者の方が通りやすいと考えますが、統合がある中で地域を作り直す必要があるという考え方をとると、前者の方になります。自分たちは、どういうつもりで提言するか、詰めていなかったように思います。
課長代理	２番の目次のところですが、検討委員会の目的や設置理由は中間報告書に書かれています。設置理由のところには、この委員会は再編後の教育を深く考えていきたいというところから話し合われてきているとなっています。
副委員長	再編をするうえで、裾野市の教育の実態があると思います。そして、再編することで目指すものも出てくると思います。考えていくとつながっていると思います。再編前にやってきた教育、再編を迎えてどうしていくかという具体はどうなのでしょうか。
課長代理	今まであったものをまわしていきながらつなげていくということを出せるように書いていきたいと思っています。ここから先だけではなく、今まであったものをつなげていくことが、裾野市の強み、裾野らしさということが伝えられるものになったらいいと考えています。
副委員長	それが目的に書かれることではないでしょうか。入るとわかりやすいと思います。
委員	前後関係のところですが、２者で前後関係があるということではないのではないかと思っています。前提として、人口減少が進んで学校のあり方そのものを見直していかなければいけないということになっているというのがたぶんあると思います。それを踏まえて学校再編もするし、やり方を抜本的に見直していかないといけないと書いていただけると、頭が整理しやすいと思います。
委員長	人口減を前提とすると、裾野市の教育のところにそれが出てこないのは変と言えば変かなと思います。何を前提として考えるのか、その部分がないかなと思います。背景に共通するものがあるということであれば、もう少しにじんできてもよいのではないかという気はしました。

教育長	現実の裾野の教育があって、人口減もあって、それをどう考えていくかが本来だと思います。その順番が入れ替わってしまった面がありました。
副委員長	一つ一つをつなぐ教育ということですね。
委員長	市としては統合を始めています。それを踏まえて議論しているとすると、今まで割と安定していた学校と地域の関係を崩すことで、裾野市の教育が変質していくことになる。この機会に、よりよい教育を創っていくというロジックであれば、再編が先にきても構わないと思います。 先ほどの発言にあったように、共通の背景があって、３が来て、４が来るようにした方がよいと思います。
委員	問題があって、それを解決するために提言するというものではないですよね。これまでの議論を聞いていると、これから何か起こりそうなことに対して、皆が知恵を絞って教育を考えるという提言の感じがします。 あるべき教育の姿の答えは皆持っていないけれど、これから起こることを皆で考えて提言していくという解釈でよいのでしょうね。
委員長	問題が見えてくるものに対して我々がどう答えるかよりも、この先来そうなことを予測しつつ、そうならないようにしようという提言であったらよいと思います。背景に不安、特に再編の背後にある人口減という話があり、いろいろな形で不安が生まれている中で、実際何を目指しているかという提言になると思います。
委員	基本的な考え方のところの２ページ目の中段のところについて、教育の問題は個々の問題ではないというフレーズがあると思いますが、どういう意味を伝えたいのかわかりにくいと感じました。 教育の問題は個々の子どもの問題ではないという考え方はすごくよくて、正しく伝えるべきと思っています。そう考えると、何か具体的な文章にしていくといいと思います。また、個々の強みでつながるだけでなく、弱みを補うなど環境を適切に調整していくというモデルをつくることも裾野らしさにつながると書いてもらっていますが、意味が取りにくいように思うところもあります。例えば、「子供の持つ個々の強みを持ち、他者とつながるだけでなく、弱い部分を補うなど環境を適切に調整していくことで子供たちが成長していくというモデルをつくることも、裾野らしさにつながる。」というような感じだったら意味が通じるかなと思いました。教育の問題は個々の問題ではないという考え方だということを少しかみ砕いた方がよいと考えました。あと、同じページの最後の段落の２行目のところに、「一人一人の心理的安全性を確保し」とありますが、たぶん心理的安全性を確保したり、調整したりしながらみたいなことかなと思いました。また、下から３行目のところの「やりたいことがやれる、それは社会の中で自分を生かすことにつながるだろう」というのは、文章を補った方が良いと思いましたし、後ろと合わせた方がよいと思いました。
委員長	指摘があったことを最終案に反映していただきたいと思います。どうしても個人の能力を伸ばすという感じになってしまうが、それは我々が意図したところではないので、環境を調整という部分を常に入れていくような形で考えてもらうとありがたいと思います。
委員	提示していただいた絵の話になりますが、なりたい自分に進んでいく力で

	良いという話だったでしょうか。多様性に満ちた教育をしていくという話と皆で街をつくっていくという話が循環して、その中に個人がいるという状態を担保するという話だと思います。だから、どちらかがゴールになった時点でつまってしまうので、循環的な形がよいと考えています。 （例となる図を示しながら）要は、一緒に街をつくっていくということにつながっていく、いろいろな人たちが関わる状態になって初めて変革というものが起こり、そうすると初めて人の個性みたいなものが大切にされる土壌が新たにつくられていくという循環みたいなものです。 自分を生かすみたいなことを内側に織り込んで、この多様性に満ちた教育と地域とともにある教育が双方共に循環するというモデルにすると、概念としては整理しやすいのではないかと思います。 今裾野市でやっていることは、国でもやっていることです。教育、福祉、労働どれも詰まっている。２０４０年代になると人が圧倒的に足りなくなる。そうなると悪循環が起こるので何とかしないといけないということで、教育と街づくり、地域づくりをどうやって循環させながら解いていくかというモデルを作ることを内閣府が動いてやっています。単年度で予算をつけて、規制も緩和しながらやっていこうというプロジェクトが進んでいます。これらの話と裾野の話は同じことを話していると受け取っています。これを全国に発信できるとよいと思っています。地域で人口が減少しても実現するんだと。それを地球全体でもやっていくという取組ができるといいかなと思っています。
委員	夢がある話でよいと思いました。そう言われてみると、重なると思います。
委員	すでに裾野で始まっている取組が結構ヒントになる気がしています。主体的にこれはまずいと考えて、立ち上がっている人がいます。それに集中していくということができると、本当に変わると思います。
委員長	独自性をどう出していくか、裾野らしさというのが議論的に難しいところです。 個人の中にある多様性が引き出されてくるというのは、自分とはこうだと思っているとじぶんが一つしかないような気がするけれど、自分の中にいろいろなものがあると広げていくというのが個人の方の変化だという話ですよね。これは、すごくいい話だと思っています。 結局同じように、裾野の中にいろいろなものがあり、今までにやっていることをやるのではなく、そこが爆発して言うという形で新しいものをつくっていくという話ではないかと思います。 提言出した後どうしていくか、大事な話だと思います。 なりたい自分とか、自分を生かすという話は、私はいまこうなのでというところから始まるので、どうしても狭くなってしまうようにとらえられると思います。いろいろな人がいる中で、自分もいろいろな可能性が開かれていくのは確かに考えたいなあと思います。私というものができあがっていくというイメージだと、ちょっと言うことと違ってくるのかなという気もしましたので、先ほどのイメージをもとにうまく考えてもらいたいとお思います。
副委員長	循環は、個人と地域が作用し合うことですね。
委員	作用し合うというのがとても大事だと思っています。人と人とでもそうで

	すし、地域とでもそうです。そこの化学反応が起これば起こるほど、少ない人数でも面白いことが起こると思うし、価値を示すことができるのではないかと思います。 確認で４の目指す教育の部分ですが、自分の発言の参考となっているのは社会モデルという考え方です。障害の社会モデルや能力の社会モデルと言われていますが、能力は環境との相互作用によって発現するという考え方です。あまりその力みたいな話とか能力みたいな話をあまり殊更に書きすぎないということが大事だと思っています。 コミュニケーションが出てくる状態にするという書き方に変えられるといいかなと思いました。 また、未来社会の中で必要だと思っているのは、特別支援学校、特別支援学級、もしくは障害福祉の中で培われた知見をどう一般に開放していくのかということが大事だと思っていて、特別支援学校、特別支援学級を充実させるということではないと思っています。１９７９年以降、日本は発達保障をやっていこうと言っていましたが、それがもう限界にきているということを文部科学省も見ています。発達保障は、それはそれでするんだけれど、同時に共生、共学で一緒に学ぶということも同時に実現するというのが次のチャレンジだと思っています。そう考えると、特別支援教育の充実ではなく、通常学級そのものをインクルーシブにする、特別支援学級で培われた知見を導入していくということができると、本当に新しいことになるのではないかと思います。 思いやり、心情のような話は取り上げやすいのですが、それに頼っているうちは変わらないと考えています。具体で何をするのか、焦点を当てるとよいと思いました。共生する作法をどう身に付けていくプロセスをどうやって持つかという観点です。通常学級と特別支援学級の子が年に数パーセントしか混ざる機会がないと、共生する心情を育てるのは絶対にないじゃないですか。プロセスとか交流するときにこういう事前準備が必要であるみたいなところを具体的に書いていくことができると、今回狙おうとしていることが本当に実現できるようになると思いました。
委員長	そういう部分は、確かにあるかなと思いました。道徳教育の中でも、心情ではなく仕組みを理解しないとだめという話もあります。そういったことを視点として持つことも大事かなと思います。 学校は多様化しているという前提で考えましょう、それに対応できるようにしていきましょうという話でずっときています。 また、裾野の中で今始まっているいいところを探して伸ばしていくという考え方が大事だと思います。
副委員長	共生に関する教員の研修が必要だと押さえられていることは読み取ることができます。
委員長	裾野市の目指す教育の中身を増やすのではなく、書きっぷりの中にあるものの見方、考え方を変えていくというところが我々に求められているところだと思います。ついつい個人や能力で書いてしまいがちですが、関係を作っていくときに、両方に主体がいてどう動けば関係が変わるのかというようなことをうまく言えるような私たちになるということが次の話になるのかなと思います。 見る人が見るとすごいというものになった時、次は何をするということになってくると思います。そういう目で見た時に、学校で何か新しいことをやっている、新しいものがあるよねっていう、これに合うようなものを探

	しながらどんどん広げていく。そういうことができる環境をつくっていくという形で話が進んでいくという形になるといいのかなと思いました。
委員	以前に戻るということではなく、昔のいいところを拾い出しながら今出ている話が出てくると面白いと思います。
委員長	子どもたちが何をどこで学べるかの状況が変わってきています。母親が子供のマネージャーになっていて、何をどこで学ぶかをマネジメントして送り出されているのが、今の日本の子供たちの環境です。 昔は、勉強は学校しかできなかったが、今は他にもあります。そうした中で、学校は何ができるところなのかを考えていくことが大切です。今すでにおもしろいことをやっている人がいるので、それを見つけて広げていけるとよいと思います。
委員	２番の教育の視点の「つなぐ」というところで、つなぐことが大事でつなぎ手の育成が必要という話だと思います。これは、先ほどの循環につながってくるところだと思います。教員も子供もそうしていかないといけないし、そういう人になってほしいということを伝えてもよいのではないかと思いました。 子供が学んでいくための環境づくりとしてということなので、子供に携わる人が主語になっていると思いますが、そういう経験を通して子供もつながる人になってほしいというメッセージがあってもよいし、そういうことがあると循環も実現されていくと思います。なりたい自分という部分と矛盾するかもしれませんが、裾野市で育てていくということはこういうことなんだというメッセージとしてあってもいいのではないかと思いました。
委員	新しい取組を先行的に付け加えると、見た人も希望を抱くと思います。また、つなぐとあるが、何でもつなぐということではなくて、ちゃんと多様性を受け入れて、多様性に欠けるところはつなぐ。そこを区別できると、さらによい教育ができると思いました。
委員	「強みでつながるだけでなく、弱い部分で」というところですが、「弱みでつながる」ということはどんなことか、読んだ人には分かりにくいので具体で示すと良いのではないかと思いました。 また、先ほどの循環サイクルを見た時に、３つが大きく循環する中で、それが行ったり来たりして最後に大きくつながるというイメージで、その中心に人と人をつなぐ教育、それが裾野の未来みたいな形で、３つがつながっていったらいいのかなと思いました。
委員	この図がまさに今の教育というか、今学校でやっていることの感じがしました。子供を鍛えて能力を高めていくということをずっと考えてやってきているし、だからこそこういうふうにできやすいのかなと思いました。しかし、それだけではだめというのがこの提言で、学校の今の文化とは違うから、入りにくいのかもしれないと考えました。話を聞きながら少しずつ自分の中に落ちてきた感じがしました。力をつけるではなく、発揮されていくものというニュアンスが、この文面から読み取れるかなと思いました。
委員	少子化が進みこの先どうなるのか。そうしたものを前提として、子供たちに自由度を持たせてあげたいという感じがしました。いろいろな解釈が出

	てきたときに、その解釈を自由に生かして小学生に将来大切なことはこういうことだと、一番大切なのは教育だということを伝えていけるといいと思いました。
委員	皆さんが行ったことが本質的だと思います。多分今しっかりしていない状態なので違和感があるかもしれないが、お互いに対話しながら落とし込んでいくというプロセスをこの後どうやってつくっていくかということだと思います。そのあたりを皆さんとご一緒できるといいかなと思いました。
委員	いろいろな議論をしてきたということを改めて感じました。これをどういった形でいろいろな活動に落とし込まれていくのかが重要で、いろいろな解釈ができるからこそ、そういったものを受け止めていけるようにさらに良いものにしていくことがポイントだと思います。いろいろなものをよしとする。それを軸としてまとまったものがこれだと思うので、そういったことを繰り返しながら提言を形にしていけるとよいと思いました。
副委員長	環境の変化とは何か。新しい視点を持つことでしょうか。開くことでしょうか。原点は人間が存在する教育かなと思います。教育委員会の考え方も変わってきているように感じますし、プロジェクトチーム会議の内容も変わってきているように感じました。 適切な課題を教員が提供するという考え方ではなく、子供たちが問題を見つけてというようにして、自分づくりが深まっていくようになったら、子供たちがどう変わっていくかと思いながらこれを読みました。
委員長	いつも気になるのが、主語をどうするかという話です。例えば、人と人をつなぐ教育ですが、誰がつなぐのか。あいまいにすることがすごく客観的であるわけですが、市がつなぐのか、人と人とがつながるのかということで全く意味が変わってきます。 新しい提言ができたら良いと思います。もう一ひねりして良いものを作っていきたいというように思っていますので、よろしくお願いします。 それでは、予定されておりました議事はすべて終了しました。皆さんのご協力により議事をスムーズに進めることができました。進行を学校教育課長にお返しします。

学校教育課長	ありがとうございました。 それでは、次に　「その他」　となります。何かございますか。
課長代理	まとめをしながら、対話がすごく大事だなと思っていて、対話することで深まったり広がったりすることがあります。今回出されたご意見をまとめて修正したものを皆さんにメールや紙媒体でお送りさせていただきます。それについてご意見をいただきたいと思います。いただいたご意見を元に最終校正を行います。その生で、さらにご意見を伺いたい場合は、メールまたはお電話でやり取りできればと考えています。その後は、委員長と事務局に一任していただきたいと思いますがよろしいでしょうか。
教育監	前回の委員会議事録の確認と市ホームページへの議事録の公開についてご意見を伺いたいと思います。本日、委員の皆さまに、前回の議事録（要点筆記）を配付いたしました。事前にお送りできずに申し訳ありません。今後ご一読いただき、何か修正する点や変更点がございましたら、１月２９日までにメールまたはお電話でご連絡ください。

	ご連絡が無ければ、前回の委員会議事録を確認いただいたということで、こちらで保管をさせていただきます。また、当議事録を市ホームページに公開することを予定しております。若干、発言者の表記に留意した上で、公開したいと考えておりますが、宜しいでしょうか。
学校教育課長	他に、何かございますか。 無ければ、閉会に移らせていただきます。 閉会のあいさつを教育部長、お願いします。
教育部長	本年度５回の委員会を開催しました。いただいた貴重なご意見をもとに再度整理し、委員の皆様に提示して修正等を加えていきたいと考えておりますので、また少しご協力いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。これで「第５回　裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。お疲れ様でした。